

パスワードに関する意識の性別による違いについて

八城年伸[†]安田女子大学現代ビジネス学部[†]

はじめに

筆者はこれまで取り上げられる機会の少なかったユーザのパスワードに対する意識について、情報に関する詳しい知識を持ち合わせていない段階の女子大学生を対象として調査を行ってきた[1]。

その結果、自分で作成したパスワードを記憶するために身近な事項への関連づけが伺え、なおかつそれが第三者に漏れやすい事項であるケースが少なくない、という結果が得られている。さらには、年を追うごとにパスワードを使い回す傾向も顕著となっていた。

こうした傾向が女子学生に特有であるのかを確かめるため、対象に男子学生を加えて調査を実施し、パスワードの管理意識について、性別による違いがあるのかについて分析と考察を行ったものである。

調査の概要

従来のパスワードの管理は、ネットワーク経由の攻撃を想定して、定期的にパスワードを変更することとされていた。しかしながら、頻繁なパスワードの変更はユーザに負担となるだけでなく、パスワードそのものが単調かつ単純になる可能性があることから、ソーシャルアタックには弱くなると考えられる。そのため、調査においてはソーシャルアタックを念頭にして、パスワードの使い回し、記憶するために連想した事項、パスワードの強度に関する設問を多くしている。

調査は筆者が担当する講義の他、対象の学生が出席するガイダンス等において、調査票方式で実施した。調査の時期と調査票の回収数は以下の通りである。

	前期			後期		
	回数	月	回収数	回数	月	回収数
2006年度	第1回	7月	184	第2回	1月	196
2007年度				第3回	12月	173
2008年度	第4回	7月	282	第5回	12月	99
2009年度	第6回	7月	78	第7回	1月	247
2010年度	第8回	6月	69	第9回	12月	285
2011年度	第10回	6月	122	第11回	12月	587

本稿においては、安田女子大学の共通教育科目と、広島市立大学の全学共通科目において実

施した第9回調査の結果を用いた。いずれも1年次生が主な受講者である。

比較の前提条件

分析は、以下の3つのグループに分類して行った。

大学	性別	有効回答数
安田女子大学	女子学生	83
広島市立大学	女子学生	28
	男子学生	49

比較の前提条件として、それぞれのグループの情報サービスの利用状況に大きな差異があることは好ましくない。情報サービスの利用数と、パスワードの使い回しの程度については信頼区間95%において有意差はなかった。反面、講義以外におけるパソコンの利用状況については、信頼区間99%において男女間に有意差があった。

大学	性別	平均利用時間
安田女子大学	女子学生	23.3分
広島市立大学	女子学生	24.3分
	男子学生	36.7分

以下の分析では男女間に有意差が見られた項目が存在するが、利用時間の差が現れた可能性も否定できない。

パスワードが推測可能か

筆者が安田女子大学に着任した際に気になったのが、友人間におけるパスワードの教えあい行為である。パソコンへのログイン状況が出席データに反映されることから、代返行為の一種と考えることもできるが、ログインパスワード以外においても類似の行動が見られたことから、女子学生における友人グループ内の親密行為の一種であると捉えていた。

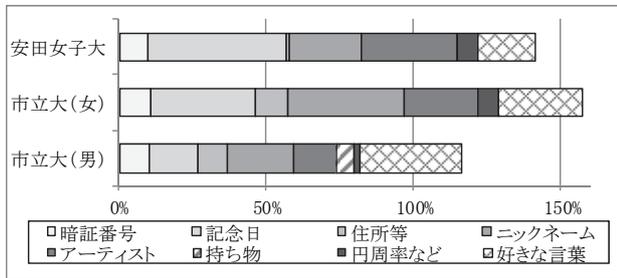
しかしながら、パスワードを教えているか、誰なら推測可能であると思うか、との設問においては、回答の内容に有意差が見られたのが安田女子大学の女子学生と広島市立大学の男子学生との間のみであった。そのため性別による違いよりも、女子大という環境の違いに起因すると推測することが妥当であると思われる。

The difference of the man and woman of the Password management consideration.

[†]Toshinobu YASHIRO, Yasuda Women's University

覚えるために関連づけた事項

パスワードを決める際に思い浮かべた事項（複数回答）については、大学間において 95%信頼区間で有意差が認められた。しかしながらグラフで見ると、それ以上の差異が認められる。



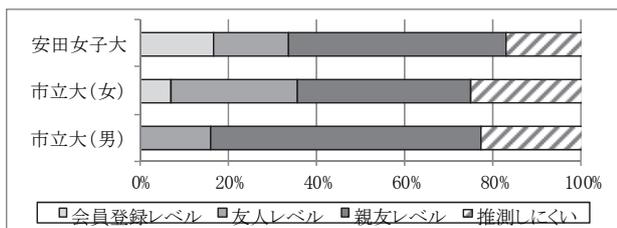
顕著なのは何らかの記念日を用いているのが、安田女子大学の学生の 47.0%、広島市立大学の女子学生の 35.7%であるのに対し、広島市立大学の男子学生では 16.3%しかないという点である。同様に好きなアーティストやタレントなど、比較的容易に知りうる事項を用いているのが女子学生の特徴であると言える。逆に、他人が知りにくいことから、パスワードを決める際に推奨される、好きな言葉やフレーズといった事項については、女子学生の方が用いるケースが少ない。

さらには、これらの事項を携帯電話のメールアドレスを決める際にも用いたか、との設問には、男女間で 99%信頼区間において有意差があり、女子学生の方が「使っている」あるいは「使っていた」と多く回答している。

以上のことから、女子学生のパスワードの作成においては、レンタルビデオ店の会員登録やメンバーズカード等の作成レベル、あるいは親密さの少ない友人関係でも知りうる事項を基にしているケースが多かった。すなわち、女子学生の方がソーシャルアタックに弱いと考えられる。

自己分析の正確性

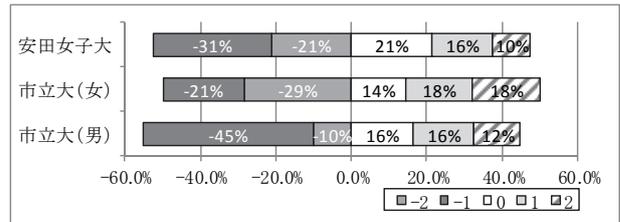
思い浮かべた事項について、どの程度の交流関係で知りうる情報かで3つのグループに分類して点数化した。複数のキーワードを用いた場合は、その数に応じて加点した。



この結果からも女子学生の方がパスワードが推測されやすい、すなわちソーシャルアタックに

弱い傾向を見て取ることができる。

自分のパスワードの強弱が客観視できているか否かは、パスワード管理の上では重要である。パスワード管理の重要性を説いたところで自分が該当していることに気づかなければ、被害が発生するまでは勘違いが続く可能性があるためである。そのため、自己分析の結果と、パスワードを考える際に用いたキーワードの推測されやすさの乖離具合、すなわち自己分析の正確性について分析した。



負の値は「過大評価」群で、ゼロが「適正評価」、正の値が「過小評価」群となる。性別による有意差はなかったが、男子学生に自信過剰傾向が見られた。

まとめ

以上の分析から見えてきた問題点は、女子学生は危険性を感じつつも覚えやすさや入力しやすさを優先したパスワードを用い、男子学生は客観的な分析ができないまま我流でパスワードを使っている、ということである。

男女で比較すると、女子学生のソーシャルアタックへの弱さが気になりである。これは女性は交際相手が変わるとメールアドレスを変更する傾向があるとされることにも関連があると思われる。すなわち、パスワードの管理で不利益が生じたとしても、その情報サービスの利用を変えればよい、と簡単に考えているのではないだろうか。安易な管理意識を持つ学生が少なくない以上は、危険性を周知した上で、より具体的な管理方法の教授が必要であると考えられる。

本稿には第11回調査の集計が間に合わなかったため、第9回調査の集計のみを用いた。調査と集計を継続することにより、本稿における分析が普遍的なものであるかについて検討を重ねることを今後の課題としたい。

参考文献

[1] 八城年伸、「女子大学生の在学中におけるパスワード管理意識の変化について」、大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会論文集、pp441-444、2011